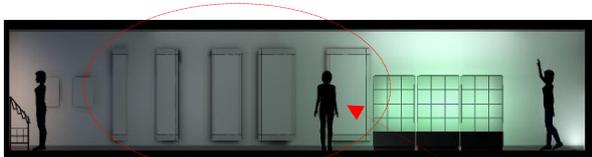
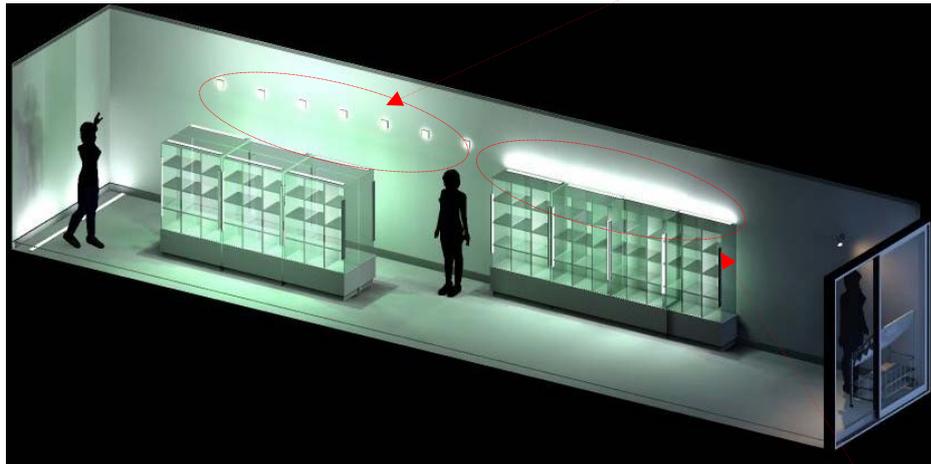


壁面の目線近くに光源（LED）を配置し体感照度をアップ。

コンテナ1：「であるコンビニエンス什器を中心とした」予想図



反対側の壁面にグラデーション状にシルバーメタルシートを張り、反射により明るさを増加させた。

天井に照明をつけずに、什器の上部、横に照明を付け、商品に均等に光があたるようにした。

画像：町田ひろ子アカデミー 店舗デザインコース作成

◇照明アドバイス 石井幹子氏(照明デザイナー)からの総評

2050年までに50%以上のCO₂削減。この目標に対して、今、我々は何ができて、何をすべきか？誰にも身近なコンビニエンスストアの照明を題材に、学生たちがチャレンジしました。現在使用されている蛍光灯自体が、高効率光源ですので、消費電力削減は、即ち光量の減少となります。少ない光で、心地よく魅力的で購買意欲をそそり、かつ安心・安全な空間を如何にして創り出すか、という大変難しいテーマです。

今回の町田ひろ子アカデミーの提案は、現状へのアンチテーゼとして、天井に何も無い照明です。まず、商品のための機能的な光を確保し、さらに全体の明るさ感のための天井への間接照明という考え方は、光の有効活用上とても大切なことです。棚板ごとではなくラック両脇に縦に光源を配し、かつ透明な棚板とするなど、少ない光を如何にして活用するか、様々な工夫が図られています。照明を建築に絡めず、ラックに組み込むという考え方は、ひとつの新たな試みであるといえます。



石井幹子（いしい・もとこ）

照明デザイナー。石井幹子デザイン事務所主宰。

東京都出身。代表作は東京タワー、東京駅、レインボーブリッジ、函館市や長崎市の景観照明。近年はオペラの照明や光のパフォーマンスにも取り組む。2000年紫綬褒章受章。光文化フォーラム代表として、国内外の光文化の継承・発展にも力を注いでいる。